

宮城県商工会 地区中小企業景況調査報告書

平成25年10月～12月期

目 次

1. 県下産業全体の景況	2
(1) 主要景況項目のあらまし	2
(2) 全国・東北ブロックおよび本県景況のあらまし	3
(3) 今後の見通しについて	4
2. 県下産業別の景況	5
(1) 製造業の動向	5
(2) 建設業の動向	8
(3) 小売業の動向	11
(4) サービス業の動向	14

平成26年1月

宮城県商工会連合会

中小企業景況調査報告書

平成 25 年 10 月～12 月期

[調査要領]

1. 調査対象

- (1) 対象地区 宮城県内 10 商工会地区
(調査対象商工会名) 名取市、大河原町、みやぎ仙台、利府松島、加美、遠田、若柳金成、みやぎ北上、石巻かほく、本吉唐桑
- (2) 対象企業数 150 企業
- (3) 回答企業数 150 企業

2. 調査対象期間

平成 25 年 10 月～12 月期を対象として、調査時点は平成 25 年 11 月 15 日とした。

3. 調査方法

- (1) 商工会の経営指導員による訪問面接調査。
- (2) 対象企業の抽出は、商工会に於いて、業種・規模等有意選定。

4. 回答企業内訳

業 種	企 業 数
製 造 業	3 4
建 設 業	2 4
小 売 業	4 3
サービス業	4 9
合 計	1 5 0

5. そ の 他

本報告書中の D I とは、ディフュージョン・インデックス(景気動向指数)の略で、各調査項目についての増加(上昇・好転)企業割合と減少(低下・悪化)企業割合の差を示すものである。

1. 県下産業全体の景況

県下商工会地区における今期(平成 25 年 10 月～12 月期)の調査において、産業全体の業況D I (前年同期との比較D I、以下同じ)は、前期より 4.0 ポイント改善し△30.2 (前期△34.2) となった。産業別にみると、製造業は△14.7 (前期△30.3) と 15.6 ポイント改善し、小売業でも△42.8(前期△55.8) と 13.0 ポイント改善した一方、建設業が△20.8 (前期△4.2) と△16.6 ポイントの悪化、サービス業では△34.7 (前期△32.7) と△2.0 ポイント悪化した。

建設業は売上・採算D I では前期より改善されており、業況のD I が大幅な悪化であったのは、前年同期の業況が好況であったこと、また来期の業況D I 見通しでは更に△14.0 ポイントの悪化予想となっていることから、事業の先行き不安が業況D I に反映された結果ではないかと考えられる。サービス業は、全国でも今期△28.3 (前期△23.6) と宮城と同様の悪化傾向にあるが、今期D I そのものの比較では宮城は全国に比べ△6.4 ポイントの差があり、宮城のサービス業の景気回復が遅れていることを示している。

(1) 主要景況項目のあらまし

① 売上額(完成工事額)の状況

売上額(完成工事額) D I では、全体としては前期 (H25 年 7 月～9 月期) での改善傾向が今期は弱まってきている。建設業は△4.2 (前期△12.4) で 8.2 ポイント改善し、小売業でも△46.4 (前期△58.1) と 11.7 ポイント改善したが、製造業は 0.0(前期 0.1)でほぼ横ばい (△0.1 ポイント減)、サービス業では△36.7 (前期△24.5) で △12.2 ポイント悪化した。

② 採算の状況

採算D I については、製造業で△23.5 (前期△36.4) と 12.9 ポイント改善、建設業は△25.0 (前期△29.2) で 4.2 ポイント改善し、小売業は△48.9 (前期△55.7) で 6.8 ポイント改善したが、サービス業では△42.9 (前期△34.7) となり△8.2 ポイント悪化した。

③ 設備投資の状況

新規投資の実施比率は、建設業では 33.3%で前期よりも比率を 16.6 ポイント伸ばし、小売業でも 18.6%と 2.3 ポイント伸ばした。製造業では 17.6%でほぼ横ばい (前期より△0.6 ポイント減) で、またサービス業では 12.2%で前期と同じであった。

(2) 全国・東北ブロックおよび本県景況のあらまし

① 売上額（完成工事額）

12月調査の日銀短観で「中小企業で景況感が大幅に改善、非製造業でも日銀調査D Iがプラスに浮上した。消費増税前の駆け込み需要の影響もあるか、ただし警戒感も強い」と発表された。宮城の今期売上額（完成工事額）D Iは、製造業を除く産業がマイナス値であるものの、前期との比較では建設業、小売業は改善傾向となり回復の兆しを感じられたが、サービス業では悪化となった。

今期の宮城の全国との売上額比較では、製造業では全国を上回ったが、他業種では下回った。東北ブロックとの比較では全業種で宮城が下回り、特に建設業の差が大きかったが、建設業の前年同期D Iで宮城が東北を大幅に上回った（宮城が先行して好況であった）ことの影響も大きいと考えられる。

表一 売上額（完成工事額）の状況（前年同期比・D I）

区分 業種	全 国		東 北		宮 城	
	前 期	今 期	前 期	今 期	前 期	今 期
製 造 業	△ 16.3	△ 8.3	△ 5.7	2.0	0.1	0.0
建 設 業	△ 2.9	6.8	4.7	16.8	△ 12.4	△ 4.2
小 売 業	△ 35.5	△ 35.3	△ 40.7	△ 34.4	△ 58.1	△ 46.4
サービス業	△ 22.9	△ 27.1	△ 24.3	△ 28.4	△ 24.5	△ 36.7

② 採 算

宮城の今期の採算D Iは、全業種でマイナス値であるものの、前期との比較ではサービス業を除く他業種で改善傾向となり回復の兆しを感じられたが、サービス業では悪化となった。今期D Iの全国、東北ブロックとの比較では、全業種で下回った。

表二 採算の状況（前年同期比・D I）

区分 業種	全 国		東 北		宮 城	
	前 期	今 期	前 期	今 期	前 期	今 期
製 造 業	△ 25.0	△ 20.0	△ 27.4	△ 15.4	△ 36.4	△ 23.5
建 設 業	△ 18.4	△ 12.5	△ 13.6	△ 6.0	△ 29.2	△ 25.0
小 売 業	△ 39.1	△ 37.6	△ 38.1	△ 37.2	△ 55.7	△ 48.9
サービス業	△ 28.9	△ 32.4	△ 32.4	△ 38.4	△ 34.7	△ 42.9

(3) 今後の見通しについて

① 県下産業全般の主要項目来期見通し

売上額（完成工事額）来期見通しD I（26年1月～3月期）について、今期状況D Iとの比較において製造業6.1ポイント、小売業6.9ポイント、サービス業2.0ポイントの改善が見通される一方、建設業については△8.3ポイントの悪化見通しとなった。

採算来期見通しD Iについては、同じ比較において小売業4.7ポイントの改善が見通される一方、製造業横ばい、建設業については△4.1ポイントの悪化、サービス業で△2.0ポイントの悪化見通しとなった。

② 全国と本県企業の来期見通し比較

今期と来期との比較において、売上額では全国、宮城共に建設業で悪化、他業種では改善方向の見通しであった。採算では、製造業では全国で改善で宮城では横ばいの見通し、建設業では共に悪化の見通し、小売業では共に改善の見通し、サービス業では全国で改善で宮城では悪化の見通しであった。

来期見通しD Iでは、製造業の売上D Iを除き、宮城はすべて全国を下回った。

表-3 売上額（完成工事額）の状況と見通し（前年同期比・D I）

区分 業種	全 国		宮 城	
	今期状況	来期見通し	今期状況	来期見通し
製造業	△ 8.3	△ 5.0	0.0	6.1
建設業	6.8	2.5	△ 4.2	△ 12.5
小売業	△ 35.3	△ 31.0	△ 46.4	△ 39.5
サービス業	△ 27.1	△ 25.5	△ 36.7	△ 34.7

表-4 採算の状況と見通し（前年同期比・D I）

区分 業種	全 国		宮 城	
	今期状況	来期見通し	今期状況	来期見通し
製造業	△ 20.0	△ 14.7	△ 23.5	△ 23.5
建設業	△ 12.5	△ 15.2	△ 25.0	△ 29.1
小売業	△ 37.6	△ 33.7	△ 48.9	△ 44.2
サービス業	△ 32.4	△ 29.1	△ 42.9	△ 44.9

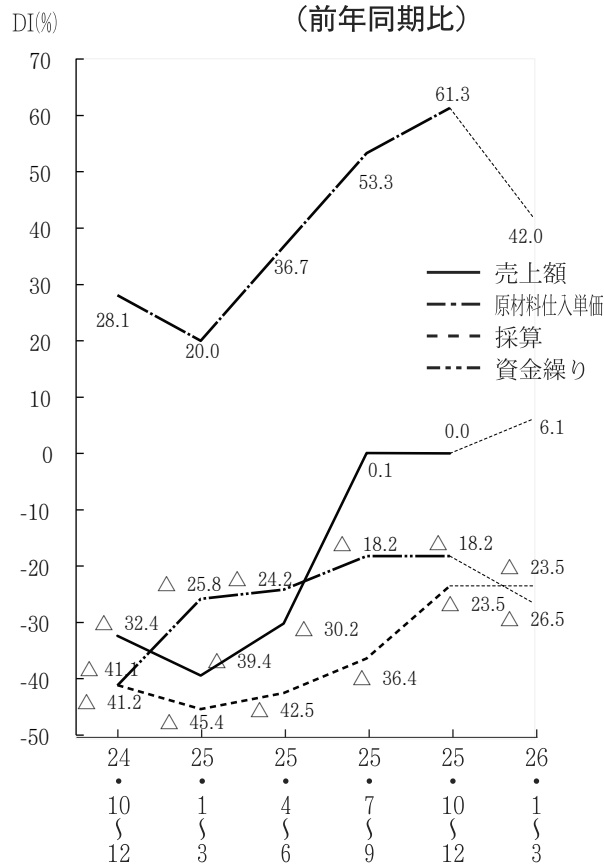
2. 県下産業別の景況

(1) 製造業の動向

① 主要景況項目から見たあらまし

前年同期比D Iは、売上（加工）額D Iが今期0.0（前期0.1）となりほぼ横ばい（△0.1ポイント悪化）であるが、採算D Iは今期△23.5（前期△36.4）で12.9ポイントの改善、資金繰りD Iは今期△18.2（前期△18.2）で横ばいであった。原材料仕入単価は61.3（前期53.3）と8.0ポイント上昇、来期は改善の見通しとなっているものの、依然原材料の高騰状況が続いている。

図1-1 主要景況項目の推移
(前年同期比)



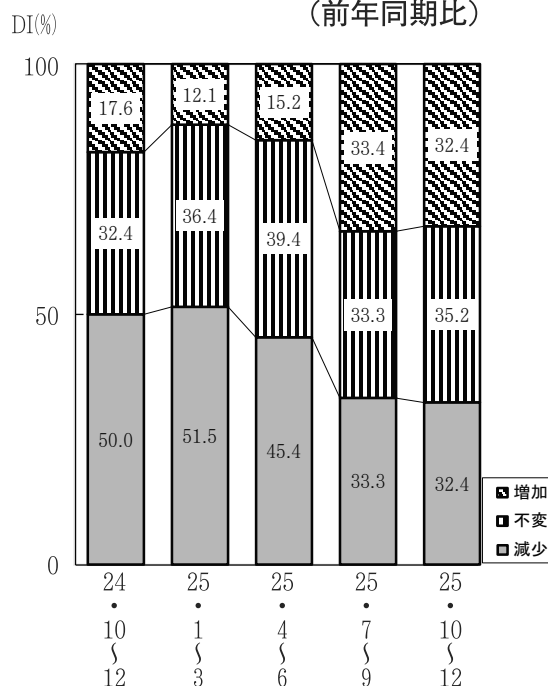
② 主要景況項目別状況

(a) 売上(加工)額

「増加」と回答した企業は、全体の32.4%（前期33.4%）と△1.0ポイント減少し、「減少」と回答した企業は32.4%（前期33.3%）と△0.9ポイント減少した。

結果として売上（加工）額D Iは0.0（前期0.1）となり前期比△0.1ポイント減とほぼ横ばいであった。

図1-2 売上（加工）額の状況
(前年同期比)

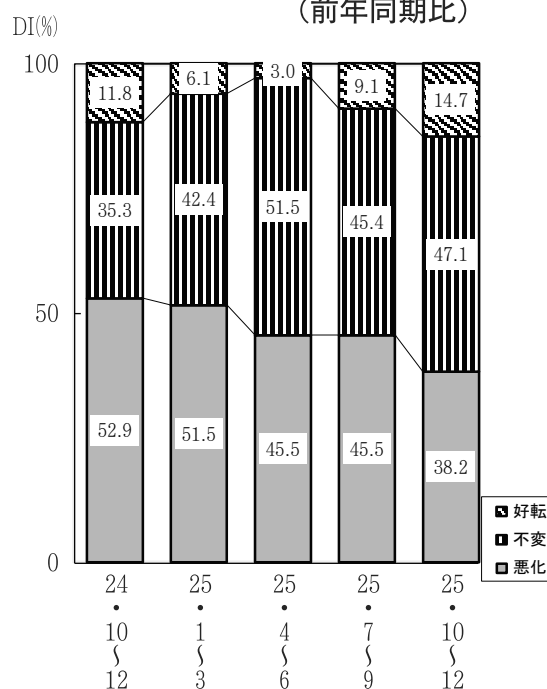


(b) 採 算

「好転」と回答した企業は全体の 14.7% (前期 9.1%) で 5.6 ポイント増加し、「悪化」と回答した企業は 38.2% (前期 45.5%) で Δ 7.3 ポイント減少した。

その結果、採算 D I は Δ 23.5 (前期 Δ 36.4) となり前期比 12.9 ポイント改善した。

図 1 - 3 採算の状況
(前年同期比)



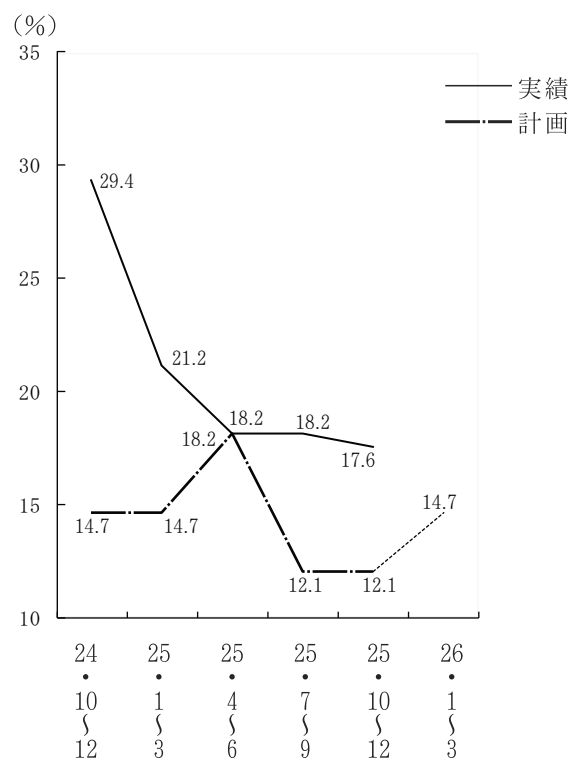
(c) 設 備 投 資

今期の新規投資実施(実績)企業割合は、全体の 17.6% (前期 18.2%) で Δ 0.6 ポイント減少した。

その設備内容は工場建物、生産設備、付帯施設、OA機器であった。

来期に設備投資を計画している企業は、全体の 14.7% で、その設備内容は工場建物、生産設備、車両・運搬具、その他となっている。

図 1 - 4 設備投資の状況

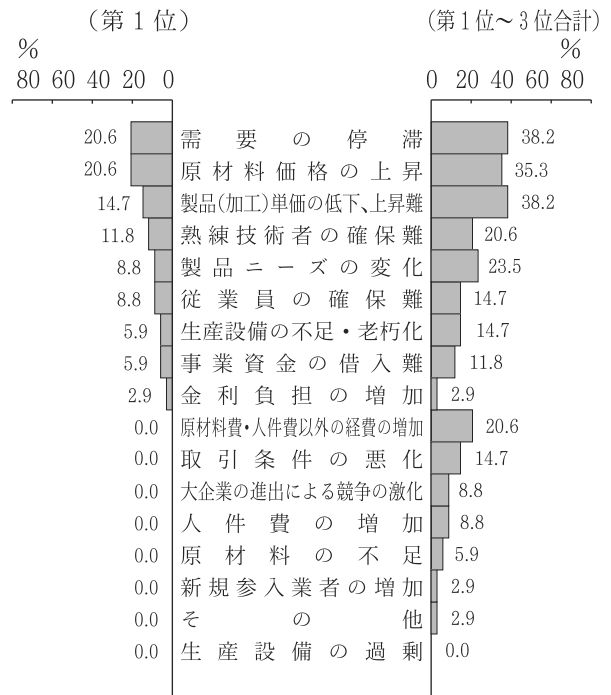


(d) 経営上の問題点

重要度第1位の問題点は、「需要の停滞」「原材料価格の上昇」が20.6%と同率1位で、「製品（加工）単価の低下、上昇難」(14.7%)、「熟練技術者の確保難」(11.8%)が続いた。

重要度第1位から第3位合計では、「需要の停滞」「製品（加工）単価の低下、上昇難」が38.2%(複数回答計、以下同じ)と同率最大で、「原材料価格の上昇」(35.3%)、「製品ニーズの変化」(23.5%)が続いた。

図1-5 経営上の問題点

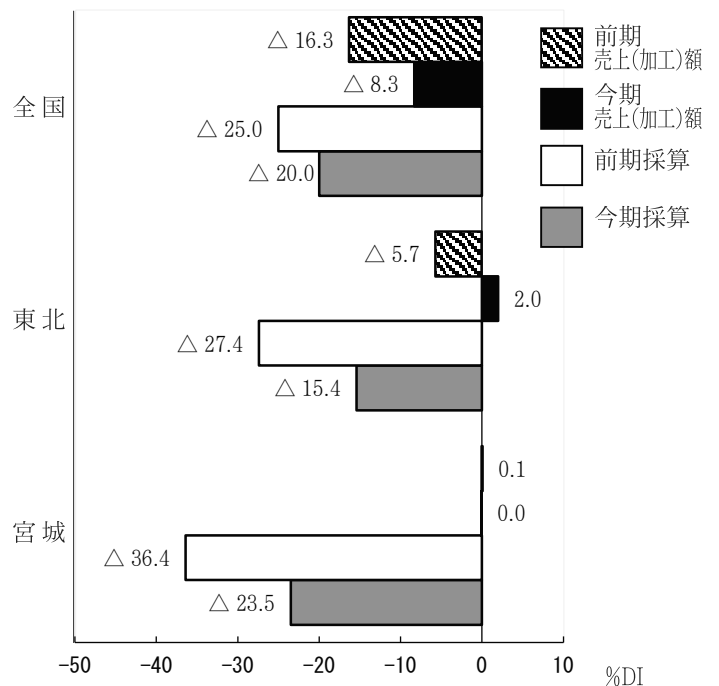


③ 全国・東北ブロックと本県の景況比較

売上（加工）額DIについては、全国と比較すると宮城は前年同期並みにまで回復しているが、改善度合いについては全国・東北に比べ、宮城は停滞気味で勢いが弱まっている。採算については、前期からの改善度では全国に比べ倍以上であるが、前年同期比DIでは全国・東北と比較すると回復が遅れている。

本県回答事業者からは「売上は増加傾向だが、先の情報が不明確で年単位の見通しに不安がある。円安で原材料その他副資材の値上がり問題か」（金属加工業）、「復興はまだだが、漁場、水揚げ場、加工場が確実に整備されつつあり、当社も加工量が増えつつある。加工員の高齢による入れ替えがうまく進まないのが悩み、また原発の風評で受注先回復がまだまだ」（水産食品製造業）との意見が寄せられた。

図1-6 全国東北宮城売上（加工）額・採算比較（前年同期比）



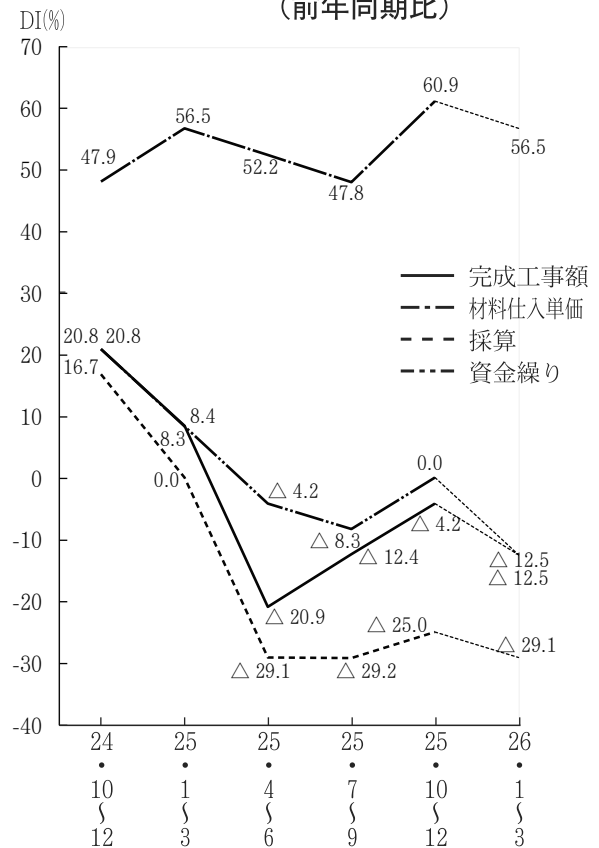
(2) 建設業の動向

① 主要景況項目から見たあらし

完成工事（請負工事）額D Iは△4.2（前期△12.4）と8.2ポイント改善し、採算D Iも△25.0（前期△29.2）で4.2ポイント改善、資金繰りD Iも0.0（前期△8.3）と8.3ポイント改善した。

懸念されている材料仕入単価D Iは60.9（前期47.8）で13.1ポイント上昇し、採算への悪影響が懸念される。

図2-1 主要景況項目の推移
(前年同期比)



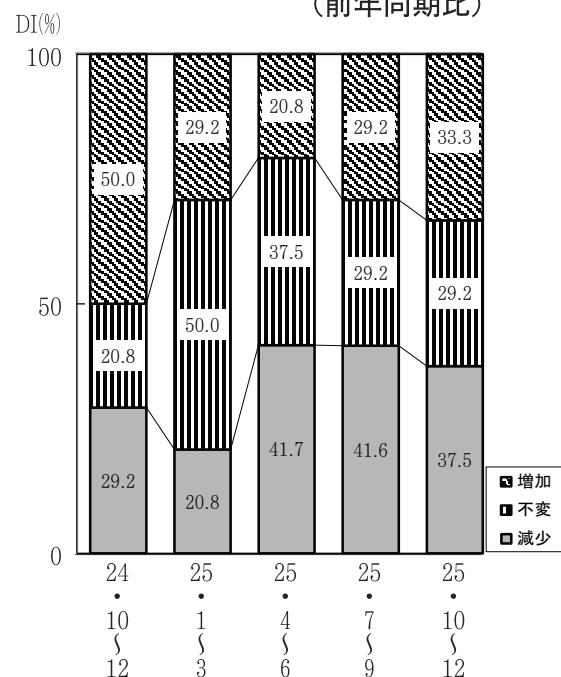
② 主要景況項目別状況

(a) 完成工事（請負工事）額

「増加」と回答した企業は全体の33.3%（前期29.2%）で4.1ポイント増加し、「減少」と回答した企業は37.5%（前期41.6%）と△4.1ポイント減少した。

その結果、完成工事（請負工事）額D Iは△4.2（前期△12.4）と8.2ポイント改善した。

図2-2 完成工事額の状況
(前年同期比)

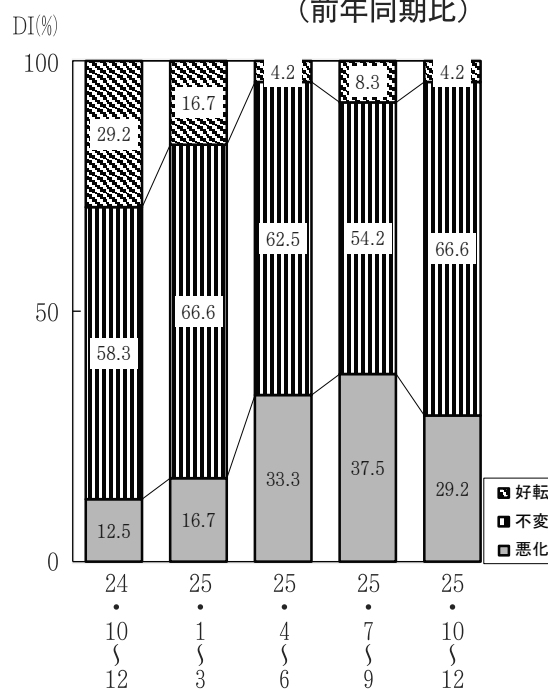


(b) 採算

「好転」と回答した企業は全体の 4.2% (前期 8.3%) であり△4.1 ポイント減少したが、「悪化」と回答した企業も全体の 29.2% (前期 37.5%) で△8.3 ポイント減少した。

その結果、採算 D I は△25.0 (前期△29.2) と 4.2 ポイント改善した。

図 2 - 3 採算の状況
(前年同期比)



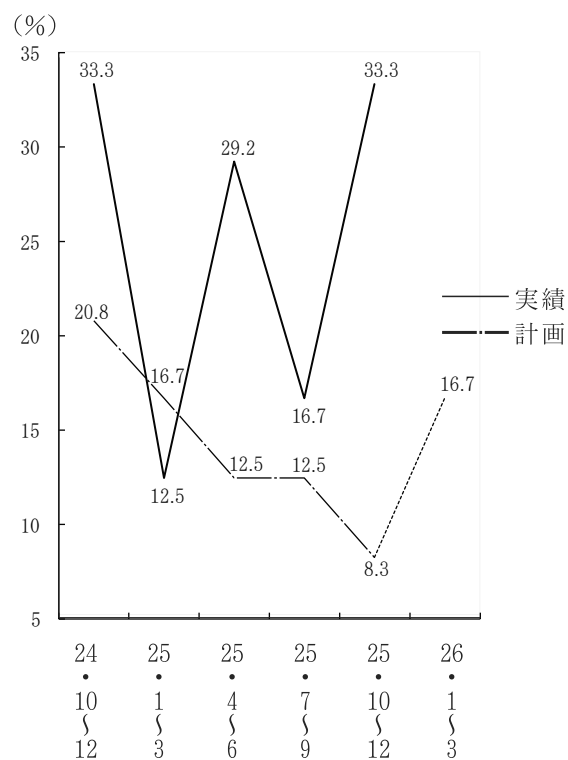
(c) 設備投資

今期の新規投資実施(実績)企業割合は、全体の 33.3% (前期 16.7%) で 16.6 ポイント増加した。

その設備内容は土地、建物、建設機械、車両・運搬具、OA機器であった。

来期に設備投資を計画している企業は、全体の 16.7% で、その設備内容は土地、建物、建設機械、車両・運搬具、OA機器、福利厚生施設となっている。

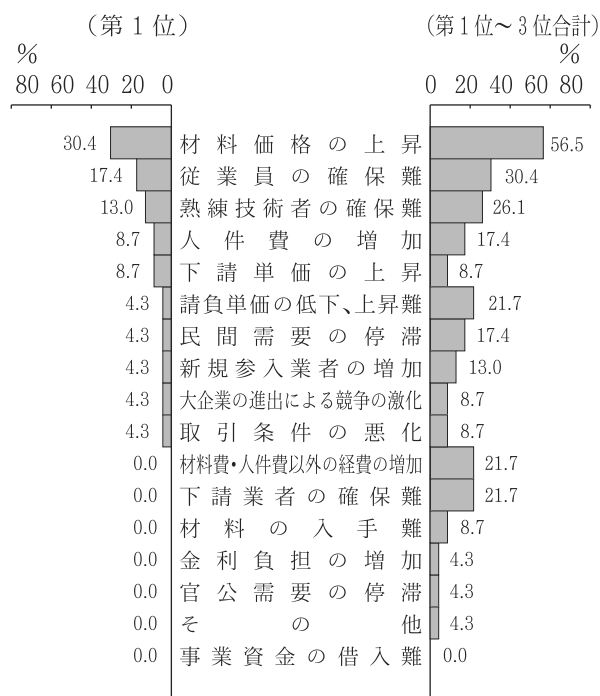
図 2 - 4 設備投資の状況



(d) 経営上の問題点

重要度第1位は、「材料価格の上昇」(30.4%)で、次いで「従業員の確保難」(17.4%)、「熟練技術者の確保難」(13.0%)が続いた。重要度第1位から第3位合計でも、「材料価格の上昇」(56.5%(複数回答計、以下同じ))、「従業員の確保難」(30.4%)、「熟練技術者の確保難」(26.1%)の順で、重要度第一位と同じ順序であった。

図2-5 経営上の問題点

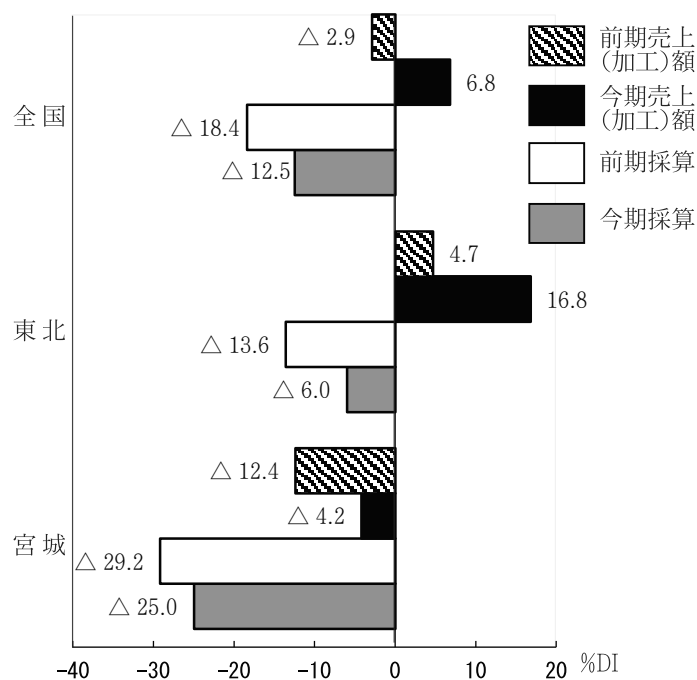


③ 全国・東北ブロックと本県の景況比較

今回調査においては宮城は全国、東北ブロックを下回る景況であった。前年同期時点では宮城が全国、東北ブロックよりも好況であったため、この好況時との比較結果が今回の調査に反映された側面が大きいと想定される。

本県回答事業所からは「震災後は売上が増えたが、最近は以前のように戻りつつある」、「従業員の年齢層が高く、若い方がいないため今後が不安。新規契約が減少してきている」などのコメントが寄せられた。

図2-6 全国東北宮城売上完成工事額・採算比較(前年同期比)



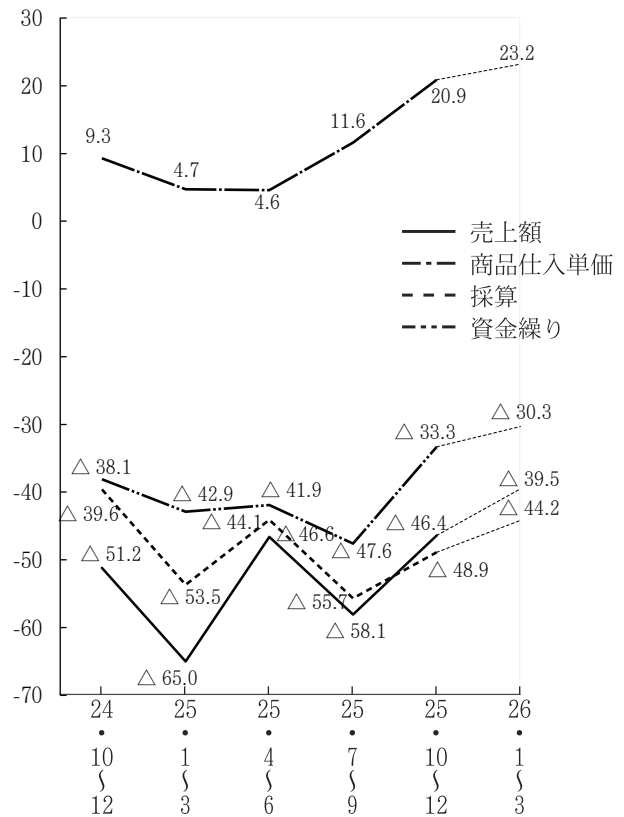
(3) 小売業の動向

① 主要景況項目から見たあらまし

売上額D Iは△46.4（前期△58.1）と11.7ポイント改善し、採算D Iも△48.9（前期△55.7）で6.8ポイント改善、資金繰りD Iも△33.3（前期△47.6）で14.3ポイントといずれも前期に比べ改善した。

商品仕入単価D Iは20.9（前期11.6）となり9.3ポイント上昇した。

図3-1 主要景況項目の推移
(前年同期比)



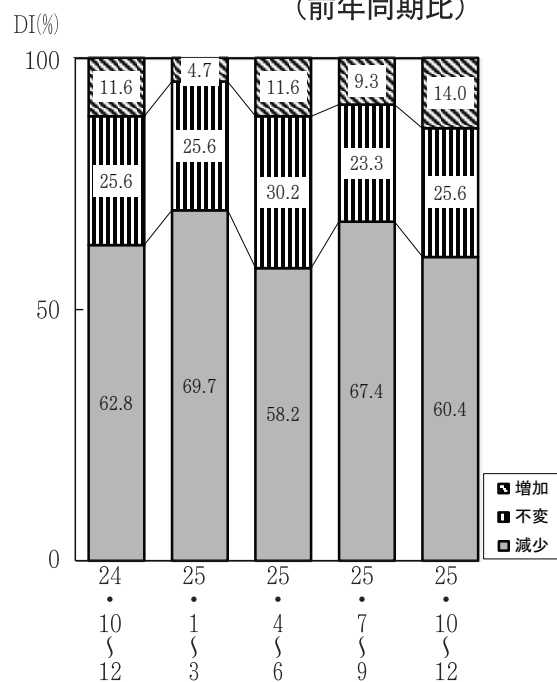
② 主要景況項目別状況

(a) 売上額

「増加」と回答した企業は全体の14.0%（前期9.3%）と4.7ポイント増加し、「減少」の回答は全体の60.4%（前期67.4%）と△7.0ポイント減少した。

その結果、売上額D Iは△46.4（前期△58.1）と前期比11.7ポイント改善した。

図3-2 売上額の状況
(前年同期比)

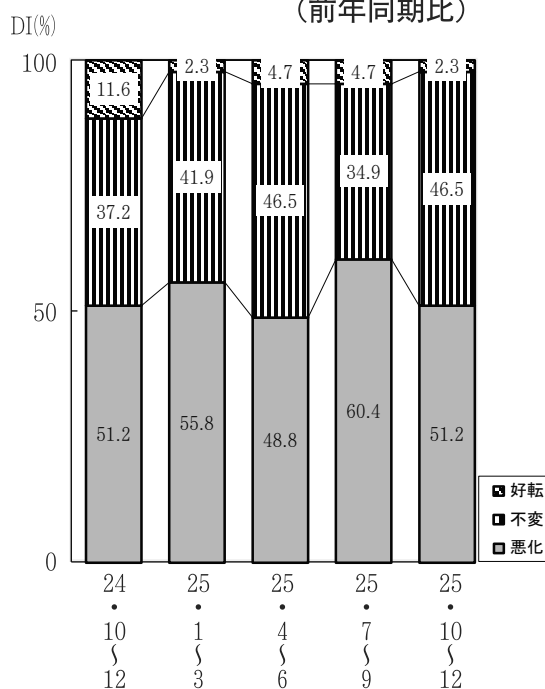


(b) 採 算

「好転」と回答した企業は全体の 2.3% (前期 4.7%) と△2.4 ポイント減少し、「悪化」の回答も全体の 51.2% (前期 60.4%) で△9.2 ポイント減少した。

その結果、採算DIは、△48.9 (前期△55.7) となり、前期比 6.8 ポイント改善した。

図 3 - 3 採算の状況
(前年同期比)



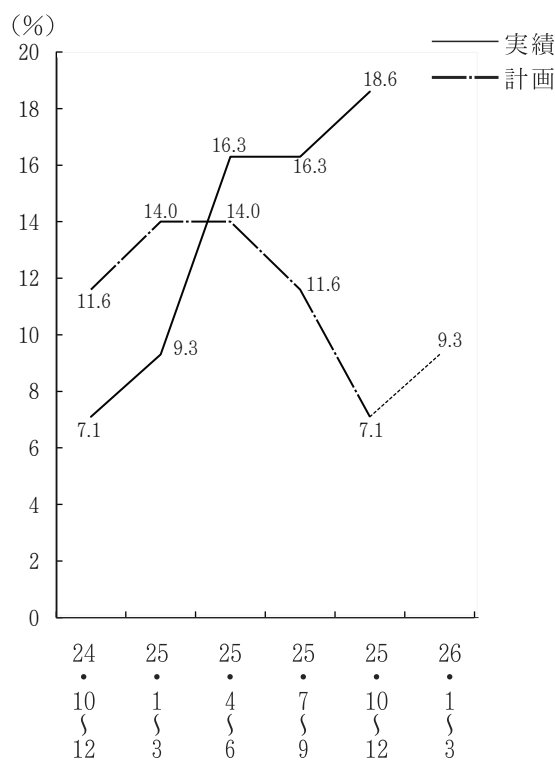
(c) 設 備 投 資

今期の新規投資実施(実績)企業割合は、全体の 18.6% (前期 16.3%) で、2.3 ポイント増加した。

その設備内容は店舗、販売設備、車両・運搬具、付帯施設、その他であった。

来期に設備計画している企業は 9.3% で、その内容は付帯施設、OA機器、その他を想定している。

図 3 - 4 設備投資の状況

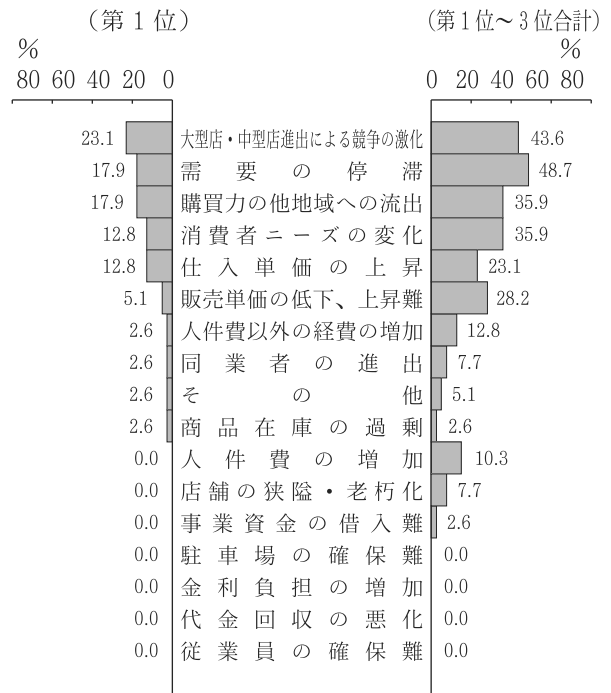


(d) 経営上の問題点

重要度第1位は、「大型店・中型店の進出による競争の激化」(23.1%)で、次いで「需要の停滞」と「購買力の他地域への流出」が17.9%と同率で続き、更に「消費者ニーズの変化」と「仕入単価の上昇」が同率(12.8%)で続いた。

重要度第1位から第3位合計では、「需要の停滞」(48.7%(複数回答合計、以下同じ))、次いで「大型店・中型店の進出による競争の激化」(43.6%)、「購買力の他地域への流出」と「消費者ニーズの変化」が同率(35.9%)で続いた。

図3-5 経営上の問題点

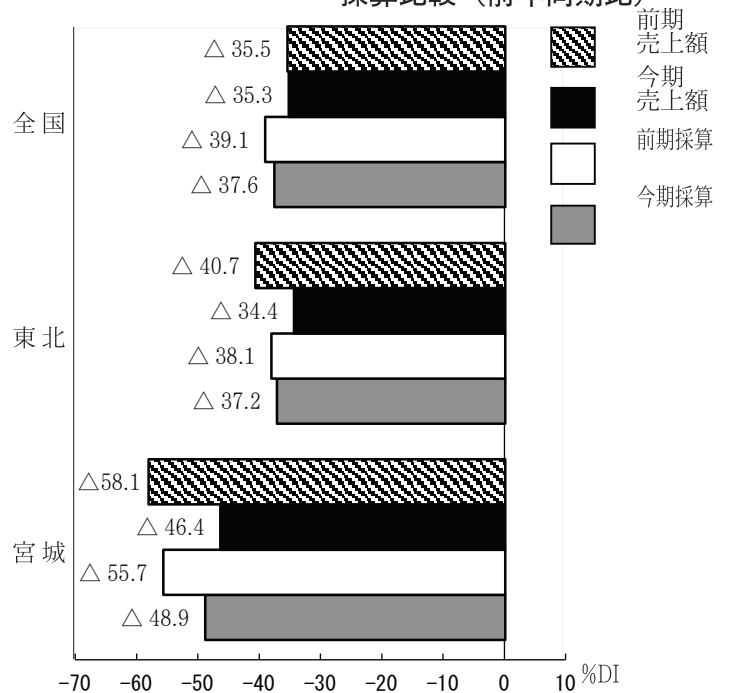


③ 全国・東北ブロックと本県の景況比較

小売業の経営環境は、前年同期比較では全国、東北と比べて宮城は依然として厳しい状況である。一方前期と比較した売上や採算では、宮城の改善度は全国、東北ブロックよりも大きく、明るい兆しが現れてきているともいえる。

本県回答事業所から「仕入れ価格の上昇を販売価格に上乗せできず、利益が減少。消費税増税分をどう価格に転嫁するかが課題」(海産物販売)、「大型店進出による売上減少が年々続いている」(酒店、靴店)などの一方、「風評被害のピークがやっとみえた。少しずつ業績が上向いている」(自然食品販売)とのコメントも寄せられた。

図3-6 全国東北宮城売上額・採算比較(前年同期比)

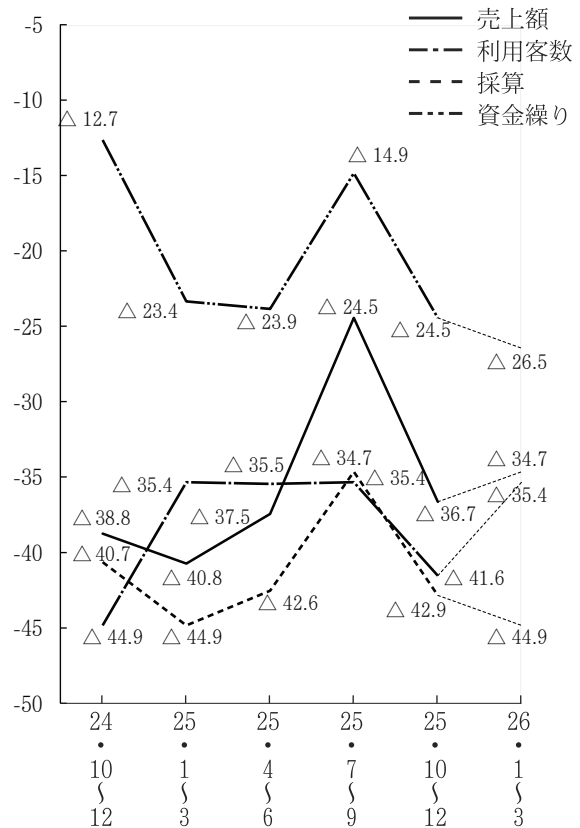


(4) サービス業の動向

① 主要景況項目から見たあらまし

売上（収入）額D Iは△36.7（前期△24.5）で△12.2ポイント悪化し、採算D Iも△42.9（前期△34.7）と△8.2ポイント悪化し、利用客数D Iも△41.6（前期△35.4）で△6.2ポイント悪化し、資金繰りD Iも△24.5（前期△14.9）と△9.6ポイント悪化した。

図4-1 主要景況項目の推移
(前年同期比)



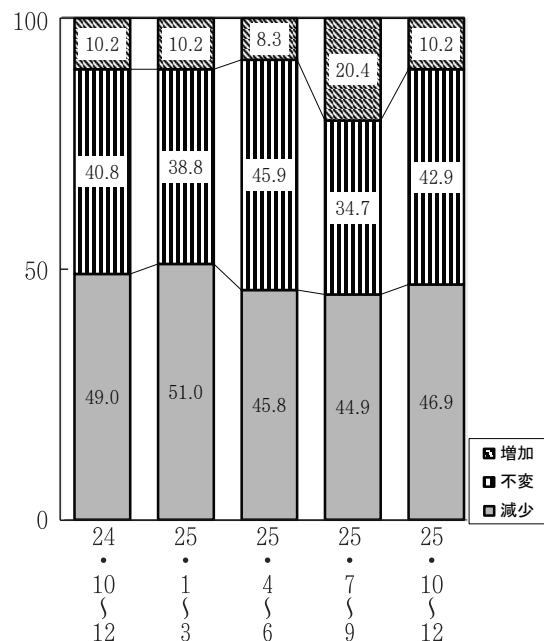
② 主要景況項目別状況

(a) 売上（収入）額

「増加」と回答した企業は全体の10.2%（前期20.4%）で、△10.2ポイント減少した。「減少」の回答は46.9%（前期44.9%）で2.0ポイント増加した。

その結果、売上（収入）額D Iは△36.7%（前期△24.5%）で前期比△12.2ポイント悪化した。

図4-2 売上（収入）額の状況
(前年同期比)

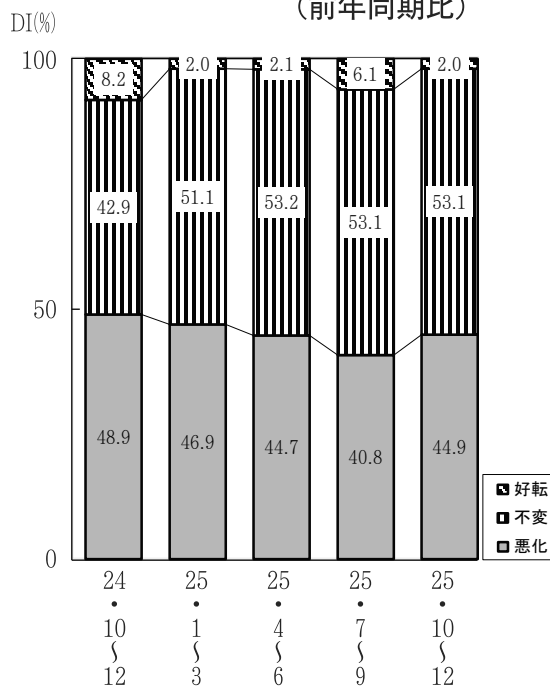


(b) 採 算

「好転」と回答した企業は全体の 2.0% (前期 6.1%) で前期比△4.1 ポイント減少した。「悪化」と回答した企業は 44.9% (前期 40.8%) と 4.1 ポイント増加した。

その結果、採算 D I は△42.9 (前期△34.7) となり、前期比△8.2 ポイント悪化した。

図 4 - 3 採算の状況
(前年同期比)



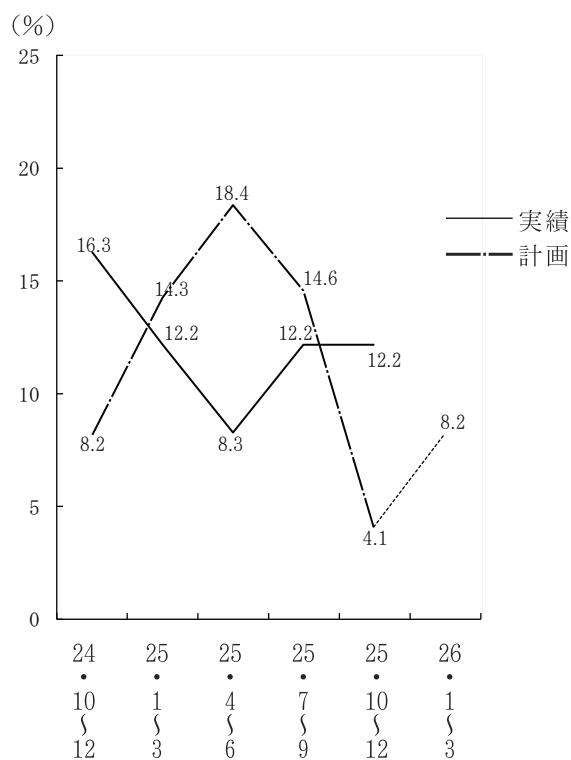
(c) 設 備 投 資

今期新規投資を実施(実績)した企業は、全体の 12.2% (前期 12.2%) で前期と同率であった。

その設備内容は、土地、建物、サービス、車両・運搬具、OA機器、その他であった。

来期に設備計画している企業割合は、8.2%であり、その内容は、土地、建物、サービス、車両・運搬具、その他となっている。

図 4 - 4 設備投資の状況



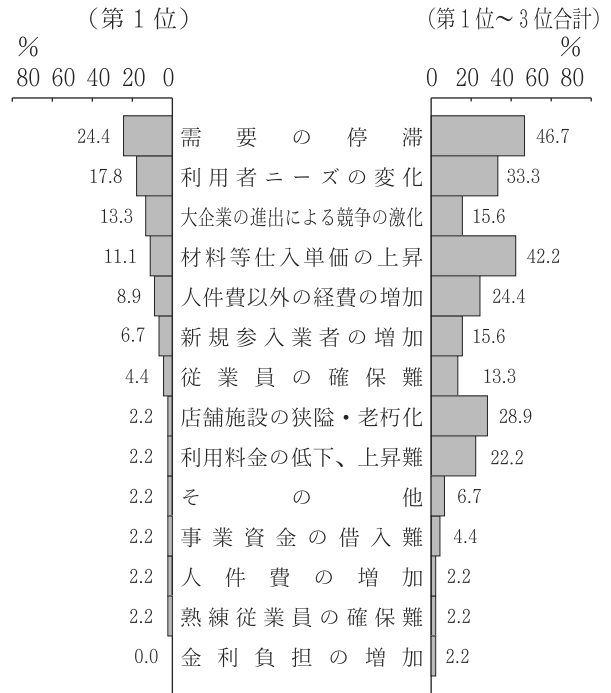
(d) 経営上の問題点

重要度第1位は、「需要の停滞」(24.4%)で、「利用者ニーズの変化」(17.8%)、「大企業の進出による競争の激化」(13.3%)、「材料等仕入単価の上昇」(11.1%)と続いた。

重要度第1位から第3位合計では、「需要の停滞」(46.7%(複数回答合計、以下同じ))

「材料等仕入単価の上昇」(42.2%)、「利用者ニーズの変化」(33.3%)、次いで「店舗施設の狭隘・老朽化」(28.9%)と続いた。

図4-5 経営上の問題点



③ 全国・東北ブロックと本県の景況比較

サービス業は、全国、東北ブロックと比較し宮城では厳しい結果であった。前年同期比較及び前期からの悪化度において、売上額・採算ともに全国・東北を下回った。

本県回答事業所からは「消費税アップ分の転嫁が困難で、低料金店とますます価格差が生じる」(理容店)「燃料(軽油)が高止まり」(運送業)等のコメントが寄せられた。他方「地元公共工事により宿泊客が増加。インターネット予約サイト経由での客が急伸した。今後大手の参入あるが自分たちの強みで対抗する」(旅館業)とのコメントもあった。

図4-6 全国東北宮城売上(収入)額・採算比較(前年同期比)

